

々ノ定理ヲ演繹セルモノニシテ其假定ハ經驗ノ範圍ヲ超越セルモノナル故ニ其客觀的眞理ハ何レニアルカヲ知ラズ只主觀的ニ眞ナリトシテ之ヲ論究スレバ足ルコトヲ述ベタルナリ。



貝細工ニ就テ (圖版参照)

教授 岩川友太郎

本邦在來ノ貝細工ハ彼ノ江ノ島鎌倉二見ヶ浦等ニテ販賣セララル、モノ、如ク色彩ノ美シキ天然ノ小貝ヲ或ハ板面ニ貼リ附ケ花鳥山水等ヲ象リテ額面若クハ小屏風ト成シ或ハコレヲ針金又ハ骨軸ノ端ニ束ネテ簪ト成シタル等ニ過ギズ、多クハ兒童ノ玩具ニ止マリテ貝殻ニ彫刻ヲ施シ床飾文鎮ブローチ襟止時計提帶止等ノ如キ大人ノ裝飾品ト成シタルモノハ本邦ニ於テ未ダ製セラレタルヲ聞カザルナリ。

是ニ寫真石版ト成セル貝ノ彫刻品ハ農商務省ノ水産傳習所ヨリ本校へ寄贈セラレタルモノニシテ其ノ細工ノ精巧色彩ノ絶美ナルハ驚クノ外ナシ、此ノ事業ノ我が國ニ輸入セラレタルハ僅ニ數年前ニシテ極メテ嶄新ナルモノナレバ聊カ其ノ來歴ヲ記シ併セテ貝殻ノ構造及ビ光彩ガ如何ニ精妙艷麗ナルカヲ紹介セント欲スルナリ唯其ノ色彩ヲ茲ニ寫真スルコト能ハザリシハ余ノ遺憾トスル所ナリ。

水産傳習所ニテ傳習生ヲ募集シ貝殻彫刻ノ授業ヲ開始セルハ實ニ五六年以前ト記憶スコレヲ擔任セル教師ハ日本畫家ノ淺井寛哉翁ナリ、翁ハ先年日本畫ノ教師トシテ佛京パリニ招聘セラレ三四年間彼ノ地ニ滞在申其ノ術ヲ習得シテ歸朝セル人ト聞ケリ、翁ノ余ニ語ラレタル所ニ依レバ本邦ヨリフランスニ年々輸入セララル、貝殻ハ非常ノ多額ニシテ其ノ原價ハ極メテ廉ナリ例ヘバ第一圖ノ如キほしだからノ原價ハ一個平均五六錢ナルニ一旦彫刻セラレタルモノハ彼ノ地ニテ普通五六圓ニ賣買セララル、ヲ見聞シ駭歎シテ思ヘラク此ノ技術ヲ本邦ニ齎ラシテ彫刻品ヲ輸出スルコトヲ得ナバ謂ハユル廢物利用ニテ國益ノ一端ニモナラント奮起シ暫時畫筆ヲ投ジテ刀ヲ取り此ノ術ヲ習得セリト果セルカナ美術ニ堪能ナル翁ナレバ忽ニシテ其ノ濫與ヲ究メ歸朝後農商務ニ獻議シテ容レラレ傳習所ニ職ヲ奉スルコト、ナリ拮据勉勵シテ今日ハ多數ノ卒業生ヲ出シ東京市内ニテハ三越吳服店ヲ始メ數個所ニ販賣店ヲ開キ其ノ販路日ヲ逐フテ擴張セララル、ニ至レルハ全ク淺井翁ノ功績トイフベシ、今ヨリ六十有餘年前出版セラレタル英人シモント氏著ノ海産論ニ記スル所ニ依レバ貝殻ノ彫刻術ハ一時イタリーノローマ府ニ限ラレシモ輒近一伊人佛京ニ來リテ此ノ業

ヲ創メシヨリ現今ハバリー市内ニ三千有餘ノ職工此ノ業ニ従事スルニ至レリトイヘリ左レバ彼ノ地ニ於テモ此ノ業發達セルハ寧ロ輓近ノコト、信ゼラル、ナリ。

(一) ほしだからノ文鏡 富士ノ景

價 三 圓

此ノ貝殻ハ七種ノ色素層ヨリ成レリ即チコレヲ表面ヨリ順ニ算フレバ(イ)光澤艶美ニシテ黒色ノ豹紋ヲ散布セル帶褐青色層(ロ)暗褐色ノ豹紋ヲ表ハセル褐色層(ハ)褐色ノ雲紋ヲ有スル淡褐色層(ニ)水色層(ホ)濃紫色層(ヘ)赤紫色層(ト)帶紫青白色層是レナリ、富士山水ノ景ハ以上七色ヲ巧ニ配合シ彫刻セラレテ青空ニ聳エタル靈山ハ雪帽ヲ戴キ中腹以下ノ山林帯ニハ暗紫色ヲ呈シテ松柏科植物ノ冬色ヲ暈取リ三保ノ松原ヲ遠ク島根隠レニ表ハシ渺々タル青海原ノ駿河灣ニハ峻嶺ノ影ヲ映シラント怪マレ渚ニ細波ノ打寄スル狀ヲモ天然ノ色素層ヲ利用シテ貓額大ノ殻面ニ彫ミ成セル妙工ハ又賞スルニ餘リアリトイフベシ。

(二) きいろごやすノ時計提 白菊ノ彫

價 九 拾 錢

此ノ子安貝ハ古來野蠻國ニ貨幣トセラル、有名ノ貝ニシテ本邦ニテハ西南近海ヨリ琉球諸嶋ニ最モ多ク產出ス表面ハ光澤美麗ナル卵黄色ヲ呈スルニ過ギザルモ中層ハ純白ニシテ内層ハ濃厚ノ紫色ナリ、此ノ三色ヲ利用シテ紫地ニ白菊ヲ浮彫ニセル手術ハ賞讃スベク品ハ亦高尚ニシテ佳致掬スベシ。

(三) ほしだからノ「プローチ」百合ノ高彫

價 壹 圓

薄紫ノ地ニ白花ノ百合ヲ浮彫ト成シ莖及ビ葉ニ褐色ノ斑點ヲ暈取リタル如キハ到レリ盡セリト言フベシ。

(四) やくわうがひノ帶止 雪笹ノ彫

價 壹圓廿五錢

夜光貝ハ表層純白ニシテ中層ハ鮮綠色ヲ呈シ内層ハ玲瓏滴ルカ如キ眞珠質ヲ有セリ、眞珠質ノ地ニ深緑ノ笹葉ヲ表ハシコレニ雪ヲ蔽ヘル狀ハ高佳ニシテ優美實ニ愛スベシ。

以上ハ圖版ニ缺ケタル彩色ト彫刻ノ妙工ヲ形容セント欲シテ綴リタルモノナレドモ余ノ不文到底其ノ萬分ノ一ヲモ表出スルコト能ハザルナリ母校へ參觀ノ好機ヲ得ラル、諸君ハ標本實物ヲ一覽シテ拙文ノ不備ヲ補ハレシコトヲ切望ス。

元來貝殻ノ應用トシテ夙ニ外國ニ隆盛ヲ極メタル業ハ貝釦ノ製造ナルベシ其ノ原料ハ矢張り本邦及ビ南洋諸嶋ヨリ彼ノ地ニ輸入セラル、ガ如クニシテ一千八百七十一年ノ古キ統計ニ依ルモ英京ロンドン市ノ諸問屋ニ取扱ハレタル本邦產ノ貝殻中あはびノ貝殻ノミニテモ二十九噸百九十五箱二百三包外ニ無包物壹萬個ト記セリ以テ其ノ量ノ多額ナルヲ察スベシ我ガ工業社界ニテモ是ニ注目シ數年前ヨリ神戸大阪ニ貝釦ノ製造所ヲ設ケ逐日貝釦ノ輸入ヲ防ギテ逆輸入ヲ爲スニ至レリ今又此ノ貝殻彫刻ノ術傳ハリテ貝殻應用ノ道ヲ一層擴張スルニ至リタルハ國家幸福ノ一端ニシ

テ欣喜ノ至リトイフベシ

最後ニ貝殻色彩ノ異種多様ナルト艶麗絶美ナルトニ就キ動物學上ノ見地ヨリ一言シテ諸君ノ參考ニ供セント欲スルモノアリ即チ眞珠ヲ始メトシ貝殻ノ色澤ノ絶美ナル金銀珠玉ニモ猶優リテ劣ラザルハ古人ノ夙ニ注目セル所ニシテ貝殻ノ構造及ビ光彩ノ變幻萬態ナルコトハ常ニ詩家文人著作ノ題目ト成レリ、貝類題詠ノ名作少ナカラザル中ニ其ノ精妙絶美ノ形態ハ海水コレヲ養成シ風波コレヲ琢磨ス等ノ句アリテコレヲ賞讃セル辭ハ殆ト盡サレタリトイヘドモ何故ニ貝類ハ斯カル美麗ナル光彩ヲ要スルカ又如何ニシテコレヲ得タルカノ問題ヲ解釋セント勉メタル者ハ甚だ少ナシ、ウードワルド氏言ヘリ、貝類各種ノ形態及ビ光彩ハ他ノ天然物ニ於ケルト同様ニ各々其ノ功用アラザルナシ是レ自然ノ定理アリテ然ルナリト至言ナランモ決シテ科學者ヲ満足セシムベキ言ニアラザルガ如シ、貝類ノ歎美ニ堪ヘザル光彩ハ多ク吾人ノ眼ニ觸レザル所ニアリ彼ノ鸚鵡螺ノ眞珠館ノ如キハ深く内部ニ秘藏セラレテ科學者ノ外ニハ曾テ見ルコト能ハザル所ニアリ、ほしだからさいろごやす等ノ絶美ナル色素層モ粗色ヲ以テ陰蔽セラレ木綿ノ裏ニ絹布ヲ装ヒタルガ如キハ其ノ動物ニ取リテ如何ナル功用アルカ又其ノ色素ハ數層ニ重ネラレ恰モ十二單衣ノ如クナルハ自然ノ用意果シテ那邊ニアルカ科學者ノ説明ニ苦ム所ナリ又貝殻成長ノ時期ニ從ヒ種々ノ色素ノ分泌セラル、理モ明カナラズ、一般ニ熱帶地方ニ産スル動物が寒温兩帶産ニ比シテ色澤ノ鮮美ナ

ル事實ハ唯太陽ノ強熱ト食物ノ自ラ異ナルトニ由ルベシト想像セラル、ノミニシテ未ダ満足ナル釋解ヲ見ず是等事實ノ原理ニ關スル吾人ノ智識ハ尙未だ幼稚ナリ遺憾ナガラモ唯自然ノ妙ト稱シテ他日ノ研究ニ待ツノ外ナシトス。

江 澤 駒 路

左に掲ぐる一節は 1911年8月31日 の Nature に掲載せられたる Sir William Ramsay が就職式の際の報告の内ラヂウムに關する事項は甚興味ある問題なりければ茲にそれを抄録したるものなり

ラヂウム鹽ニツキテハキュウリー夫人 (Madam Curie) ノ初メテ研究シタルモノニシテコノ鹽ハ甚良ク「バリウム」ノ鹽ニ類似シ(硫酸鹽炭酸鹽クロム酸鹽)其ノ鹽化物及び臭化物ハ「バリウム」ノ鹽化物臭化物ト同様ナル結晶形ヲ有ス其ノ金屬ハキュウリー夫人ノ研究ニヨレバ白色ニシテ水ニ侵サレ易ク明カニ「バリウム」屬ノ特性アリ又其ノ原子量モ恰モ週期表中豫定ノ場所ニアリキュウリー夫人及ビソルプ (Thorp) ニヨリテ決定セラレタル如ク其ノ原子量ハ「バリウム」ヨリモ八九・五多シ即「ラヂウム」ノ原子量ハ凡二二六・五ニシテ明カニ一ツノ元素ナリ。

然レドモ「ラヂウム」ハ甚奇異ナル性質ヲ有スルモノニシテ凡原子量ノ一定不變ナルコトハ元素ノ缺クベカラザル性質ト信ゼラルレドモ「ラヂウム」ニアリテハ然ラズシテ常ニ一定ノ比ヲ以テ他ノ物質ニ變化ス一瓦ノ「ラヂウム」ヲ一七六〇年間保存スル時ハ二分ノ一瓦ニ減少シ二分ノ一瓦ハ